

新妻はメス 奴隷



コータロー 著
恥辱なる小説

お断り

こちらは、『新妻はメス奴隷～アナタごめんなさい』のお試し版になります。

尚、本作品は販売時におきまして、改変の可能性がございます。その点は、十分ご理解のほどよろしくお願いいたします。

ご注意

ここに掲載されている物語は、全てフィクションです。
実在の人物・団体・事件などには、一切関係ありません。
本書のコピーを固く禁じます。

登場人物紹介

【三橋優子（みつはし ゆうこ）】

B 8 4 - W 5 8 - H 8 6 2 7 才

本作品のヒロインであり、結婚して半年の新妻。
大学を卒業後、中堅規模の商事会社に事務職として入社するが、同じ社の営業部門にいた秋伸と知り合い結ばれる。
成熟した女性らしい魅惑的な肢体に、どこかあどけなさを残す美顔。
何事につけても控えめでおしとやかな性格から、寿退社を迎えるまで、社内の誰からも好かれていたようである。
結婚後 4 ヶ月で、夫の秋伸が子会社に出向することになり、週末だけの夫婦生活に寂しい思いをしている。

【三橋秋伸（みつはし あきのぶ）】

優子の夫であり、現在 2 9 才。中堅規模の商社に勤めている。
妻の優子とは職場結婚で結ばれたが、新婚生活が始まった矢先に、子会社に出向を命じられる。
本人曰く、やりがいのあるプロジェクトとのことで張り切ってはいるのだが……
学生時代からラグビー部に所属していた影響か、ガッツ溢れる好青年である。

【山波哲司（やまなみ てつじ）】

優子が商社に入社した時の上司であり、現在は、夫である秋伸の上司に収まっている。

40代前半ながらも、社内ではやり手と評判の社員であり、ゆくゆくは執行役員という噂さえある。

優子を秋伸に紹介し、恋愛の橋渡しから結婚式の仲人までを買って出たのも彼である。

面倒見が良く、優子も職場の上司として尊敬していたのだが
.....

目次

- 第 1 章 新妻の指は股間へと沈み……
- 第 2 章 脅迫～レイプ魔のペニスと結ばされて
- 第 3 章 メス奴隷への序曲
- 第 4 章 新妻の鳴き声は、個室トイレに響く
- 第 5 章 露出調教は、恥肉の悦び
- 第 6 章 恥辱接待～闇夜の路地裏で
- 第 7 章 わたしは負けない！ あなたの妻だから

第2章 レイプ魔のペニスと結ばされて

(1)

山波哲司は、優子が入社した時の上司であり、夫の秋伸を引き合わせてくれた人物である。

結婚式の時は仲人も快く引き受けてもらい、今は秋伸の上司に収まっている。40代前半ながらも、社内ではやり手と評判の社員であり、ゆくゆくは執行役員という噂さえあると、秋伸は話していたが。

その噂の上司が、優子の目の前に立っていたのだ。

彼女が仕事を覚え始めた頃と同じ、あの柔和な顔つきで。ただし、スーツはおろか、下着さえも脱ぎ去った全裸な男の姿で。

「ふふふっ、結婚式以来だね。半年間、三橋君の元で人妻をしてたけど、優子ちゃんは全然変わっていないね。いやあ、女子大を卒業して入社したあの頃と、全く一緒だよ。社内でもたった1日で噂になる美人で、まだ、あどけなさを感じさせる子供子供したところまで全部。くくくっ、三橋君には土日とも、たっぷりと抱かれているのにね。セックス……そう、セックスだよ」

「いい、嫌あつ！ 来ないで……近付かないで……」

一步、また一步と獲物を追い詰めるかつての上司は、変質者の目をしていて。素裸で、顔を背けても目に入る怒張した肉棒を揺らせて、逃げ場を失った優子との距離を確実に狭めていく。

「け、警察を呼びますよ」

優子はスがる思いで、決めゼリフを吐いた。

だが、山波は動じない。それがどうしたと言わんばかりの態度で、更に間合いを詰めた。

スマホは、秋伸からプレゼントされたバッグに入っている。出掛ける時は必ず持ち歩くバッグだが、今はリビングのテーブルの上にそれが見える。

電話もそうだ。こちらはリビングの先、玄関から入った廊下の突き当たりに設置してある。

どちらにせよ、迫る山波を乗り越えなければならない。

「こ、来ないで……！　少しでも私に触れたら、これでアナタを刺します」

「ほおっ、優子ちゃんに、そんな刃物は似合わないと思うけど」

咄嗟に握り締めていたステンレスの万能包丁にも、山波の顔付きは変わらない。驚きもしない。柔和な表情のまま、突き付けた包丁を気にすることなく腕を伸ばして……

「ヒィ、嫌！　触らないで！　イヤァッ、イヤァァッ！」

銀色に輝く刃物は、意図も簡単にはたき落とされていた。

鋭い手刀を優子の手首に浴びせた山波は、包丁を失くした彼

女の腕を掴み、キッチンから引きずり出していく。そのまま男の腕力でリビングまで連れ出すと、優子はソファーに向けて突き倒されていた。

これからの情事にジャマだとばかりに、彼女のバッグが乗ったテーブルも足で蹴り出すと、仰向けのまま顔を引きつらせた新妻をマジマジと見下ろした。

「一緒に仕事をしてた時は、おしとやかなお嬢さんだと思ってたんだが。ふふふっ、三橋君とセックスするうちに、ジャジャウマな人妻に成り下がったようだね」

「ああ、アナタなんかに……離れて、今直ぐに離れて！」

三人掛けのソファーに寝転ばされても、スラリとした優子の手足は食み出していた。

頭と太股を左右の肘掛けに載せて、背中から腰を座面に押し込められた窮屈な姿で、それでも彼女は抵抗を示そうとする。両手を闇雲に突き出しては、ヒザから下の両足も闇雲にバタつかせていた。

勃起させたペニスを堂々と晒した男が、若い人妻を相手に何をするのか。

助けを呼ぶ手段を失ってはいるが、その行為からは何としても身体だけは守り抜かねばならないのだ。愛する夫のためにも。

「優子ちゃん、僕とセックスしてくれるかな？ ふふふっ」

山波は床に落ちていたガムテープを拾い上げると、音を立てて引いた。

いや、そんなものが都合よく転がっているわけではない。この

男が、事前に準備していたのだろう。

（どうしたのよ、優子？！ 早く起き上がらないと、この男が……！）

貞操を奪われる危機感は、身に沁みて理解していた。けれども度を越えた恐怖が、彼女の身体を見えない鎖でじわじわと縛りつけていた。

「やあ、やだあ……いやああっつ！」

男の両腕いっぱい伸ばされて千切られたガムテープが、まずは振り回す優子の両腕を封じた。

慌てて引っ込めて、胸をガードさせるようにクロスしたその手を、頭上にまで持ち上げさせる。そして、手首を揃えさせると厳しく縛り上げるのだ。

声を涸れさせて暴れる新妻に、山波は手加減なしのビンタを浴びせた。グローブのような分厚い手のひらが、右のほっぺたを打ち据え、翻した手の甲が、左のほっぺたも打ちのめしていた。

両親に手を上げられたことのない優子である。幼い頃から礼儀正しく、それに見合う愛情を持って育てられた彼女には、衝撃過ぎる仕打ちだった。

頬に焼けるような痛みと共に、どうしようもない絶望を感じた。舌が血の香りを舐め取り、逆らう愚かさを彼女の理性に伝える。

「優子ちゃんが悪いんだよ。暴れたりするから」

虚ろな目で見上げる新妻に、男は喉の奥で笑いかけると、ガムテープをまた長々と伸ばしては千切った。

八頭身美人を示す美しい両足をするすると撫で擦って、優子に抵抗の意思がないことを確認すると、密着させるように組み合わさせた足首にもガムテープを巻き付けていく。

(2)

ビリッ！ ブリッ！ バチッ！

エプロンの留め紐が引き千切られ、ブラウスのボタンが弾け飛び、スカートのホックとファスナーは、力任せに破壊される。素足を覆うストッキングは、弄ばれるように引き破られていた。

秋伸と肩を並べて座ったソファの上で、優子はボロキレにされた衣装を纏わされていた。

はだけさせられた胸元からは、ページュ色の飾り気のないブラジャーを露出させて、太股の半ばまで引き下ろされたスカートの上では、同色の地味なパンティーも晒している。

「なんだ。もっと色っぽい下着を期待してたのに、これじゃ、僕の女房と変わりはないな。まあ、それだけ優子ちゃんが、主婦を真面目にやってるってことかな」

柔和だった男の顔は、鼻の下を伸ばした中年のスケベ面に変化していた。

下着を覗かれている。それも昨日の夜に風呂上がりに着替えてほぼ丸1日、肌に貼り付かせていたモノをだ。

「イヤ……み、見ないで……」

「ふーん、見ないでってことは、触ったりするのはOKってことかな。ふふふっ、脱がしたりすることも……」

優子が露わにする羞恥心は、性欲をたぎらせた山波にとって最高のディナーということだろう。

ブチッ！

「キャアアッ！」

ソファーに押し付けた背中で、嫌な音がした。肌に触れていた下着が、突然凶器のように噛み付き痛みが走る。

山波が伸ばした腕が優子の胸元へと向かい、乳房をガードするブラジャーが乱暴に取り去られたのだ。二つ並んだカップの継ぎ目に太い指が喰い込み、思いつ切り引っ張り上げられたのである。

豊かな成長を見せた双球が、こんな時でもプルンと弾けて男を悦ばせるのが悔しかった。

「優子ちゃん、いくつになった？」

「くっ……27です……」

「はははっ、年を訊いたんじゃない。優子ちゃんの、おっぱいのサイズを訊いているんだよ」

背中ストラップが伸び切り、無残な姿を晒したブラジャーを、山波は指の腹で撫でつけながら答えを促した。

「は、はちじゅう……よん……です」

口にして、悔し涙が溢れてくる。

「ひゅっ♪ 入社した頃は、確か……80だから、それから5年で4センチもデカパイになったってことだな」

「な！ どうして、それを？」

だが女心が見せる光る液体も、山波が呟いた言葉の前には、驚きの色に染まる。

「はははっ、そんなにびっくりことはないだろう。僕は総務の連中にも顔が利くんだよ。気になる女子社員のスリーサイズくらい、缶コーヒー1本おごってやったら、軽い、軽い」

山波の人脈をアピールするしたり顔に、優子は茫然とする。まさか、女子社員が受けた健康診断の結果までもが漏れていたとは！ それも、性的な材料として。

「因みに優子ちゃんのヒップサイズは、寿退社前の測定で86だったけど、あれから、三橋君にたっぷりと可愛がられたからねえ……さあて、今はどうかな？」

むき出しの乳房とボロキレの仲間入りを果たしたブラとの間を、山波の目が何度も往復していた。それが意味深な言葉と同時に、一気にスライドを開始する。

「あ、ああ……いや……」

男のターゲットが下腹部に移り、優子は声を詰まらせた。

その目の前で山波は腰を屈めると、両腕を唯一残された下着に向かわせる。

「や！ 嫌よ！ そ、それだけは、許して……」

優子の抵抗が俄かに激しさを増した。四肢を拘束されながら、それでも女の部分を包むパンティーだけは守ろうと、イモムシのように身体を振るのだ。

「無駄だよ、優子ちゃん。ほうら、もうすぐキミの大切な処が……くくくっ」

「やめてえ……お願いだから、あ、ああああ……」

汗ばんだ指の腹がウエストの肌にピタッと貼り付き、ナメクジのように這った。ヘソの窪みの下辺りまでを覆った婦人ショーツを指先が掴みあげ、ゆっくりといたぶるように引き下ろしていく。

健気に閉じ合わせた太股の上で、慎ましく生え揃った恥毛が風もないのにそよいだ。

ギュッと目を閉じた優子が、露出する肌全てを鳥肌に変化させながらも、羞恥の極みを耐え凌ごうとする。

(優子、泣いちゃダメよ。この男は、あなたが恥ずかしがるのを愉しんでいるのよ)

まるで蟻の行進のように、それでも優子のパンティーはジリジリと脱がされていく。

先行するサイドのゴムが太股の半ばまでずり下がり、絡み付いたままのスカートに触れた。ベージュ色をした主婦らしい色合いのパンティーが、クロッチの部分を裏返した状態で、優子の股間から引き剥がされていた。

「とうとう、オマ○コが丸見えになったね」

「ひい、ひやあつ……ああ、見ないで……」

むっちりとした太股の肉を密着させても、秘部の全ては隠し切れていない。

黒い翳りの下から見え隠れする肉の割れ目に向けて、山波がふうっと息を吹きかけた。直視できずに目を閉じていた優子が、泣きそうな悲鳴と共に、下腹部を身悶えさせる。

(秋伸、助けて……優子、このままだと……)

日はどっぴりと暮れていた。キッチンの照明に反射する時計の文字盤は、午後 7 時 30 分を指していた。

(3)

「どうかな？　ここで、無抵抗な優子ちゃんをレイプしても構わないんだけど、僕と取り引きしてみないか？」

意味ありげな口調で山波が話しかけてきたのは、悲鳴を上げる優子の裸体を、男がスマホで撮影した後のことだった。

今でも『カシャ、カシャ』としたシャッター音と、そのたびに焚かれるフラッシュの光が、鼓膜と脳裡にこびりついて離れない。

「取り引きって……？　どうせ、いやらしいことをする気なんでしょ？　だったら早くしなさいよ！　そんなのどうでもいいから、私をレイプしなさいよ！」

控えめでおしとやかな彼女とは思えない、激しい口調で優子は言い返していた。四肢を拘束されたまま写真まで撮られて、諦めの感情が胸の中いっぱいに広がっていた。

「おう、怖いねえ。確かに取り引きをしたって、優子ちゃんとエッチすることには変わらないけどね。だけど、このままだと……三橋君が大変なことに」

「えっ！　どうして……あ、あの人は関係ないでしょ」

優子の瞳が微かに震えた。渦巻く怒りの中に、水を差すような不安が流れ込んでくる。

「それが、関係大ありなんだよね。僕は三橋君の上司なんだよ。その僕が部下の妻をレイプする。この意味が分かるかい？」

「そんなことをしたら、あき……いえ、私の夫が黙っていませんし、アナタは警察に掴まって身の破滅です」

「ふふふっ、だろうね。でも、勤めている会社はどう思うかな。レイプ魔として僕は裁かれるが、被害者の夫といえども、彼の処遇は……優子ちゃん、キミも同じ職場で働いていたんだ。商事会社の体質がいかに汚点を嫌うか知っているよね？」

「……」

山波の人を喰った話にも関わらず、優子は反論の言葉を見失っていた。

正論を振りかざしただけでは生き残れないのが、世の中である。特に現職の商社マンである山波の言葉には、リアルな説得力がある。屁理屈だろうが、それが現実というものなのだ。

左遷……解雇……世間の目……秋伸は？ 私は、優子は？

「それと、勝手口の鍵が掛っていなかったけど、あれって欲求不満な優子ちゃんが、僕を誘おうとしてたのかな？ ふふふっ」

「違います！ それは、私がうっかりして、だから……」

山波の含み笑いが緊縛の杭となって、揺れ動く優子のハートに打ち込まれていた。

週末にだけ会える夫の笑顔に上せあがってなど、レイプ魔な元上司を前に口が裂けても言えない。

(だったら、私は……優子は……この男に……)

幻影のように秋伸の姿が現れて、すっと消えた。

その一瞬に目を凝らして、優子は垣間見える夫の声を覗いた。心の叫びを打算的に解釈していた。

理不尽すぎる脅迫である。けれども純粋な少女ではない。大人の事情を知り過ぎた27才の女は、苦渋の決意を呑む覚悟をそして決める。

「それで、取り引きって……私は何をすればいいの？」

自分でも驚くほど冷たい声が聞こえた。引き絞っていた太股の筋肉が、ほんの少し緩むのを感じた。

(4)

「ああ……こんなの、恥ずかしい……」

「優子ちゃん、いや、優子。目を閉じるんじゃない！」

消されていたリビングの照明は、赤々と点灯されていた。LEDライトの光の中で、優子は天井を仰ぎ見ながら股を開いていた。

次第に支配者としての本性を発揮する山波。

その憎い男の身体を優子は跨いでいる。ボロキレだった衣装は全て取り払われて、四肢を拘束していたガムテープも除去されて、生まれたままの全裸の身体を、隠すべき女の秘部も含めて全て曝け出しているのだ。

「僕のことを愛する夫として、優子は相手をしてくれるんだ

ろう？ だったらまずは、愛する妻のオマ○コを観察しないとな」

山波の目線が、デリケートな部分で這い回るのを感じた。夜の営みで秋伸の目にしか触れさせなかった女の亀裂を、優子は卑劣な男に覗かせているのだ。

これが、かりそめの夫婦が交わした取り引きである。

秋伸が出向先から戻って来る、およそ3時間の間、優子は山波の妻として過ごさなければならないのだ。

素直に従えば、今夜の出来事はなかったことにする。おまけに秋伸の上司として、彼が取り組んでいるプロジェクトを全面的に支援すると。

もし取り引き不成立なら、力づくで優子をレイプし、その足で自ら警察に出頭すると。

(あなた、ごめんなさい。不埒な優子を、どうか許してください)

口にすれば山波がニヤ付くセリフを、優子は幾度となく胸の内で唱えていた。

「旦那とズボズボやっている割には、綺麗なマン肉をしているじゃないか。今度は指で開いて、中の肉を見せるんだ。ふふっ、優子は僕の妻だから、ちゃんと出来るよな」

「はあ、はい……優子は、アナタの妻です。だから……くうっ、見てください」

※ 体験版はここまでです。
続きは本編でお楽しみくださいませ。

【既刊小説ご案内】

お漏らしする女の子って嫌いですか？

女の子が、オシッコを我慢しながら身悶えるストーリーです。
『オシッコのお漏らし』がテーマになっています。

卑劣な少年に脅迫され、トイレに行くたくても行かせてもらえない美少女が、人目を気にしながら、ひたすら排泄に耐え続けます。

排尿を禁止させられたまま、少年とデートと称して街の散策を命じられます。

我慢に我慢を重ねて、少年の目の前で排尿。羞恥の涙を流します。

作品文字数 46423字（本文のみ）

全編が『オシッコ』『我慢』『お漏らし』『羞恥』『排泄』『脅迫』『オムツ』のキーワードを元にストーリーが展開していきます。

縦書き用と横書き用の2パターンを同梱いたしております。
尚、製品版には、既刊小説のお試し版も同梱済み。

（税抜 400円）

美少女奴隷 淫獄の世界

「ふふっ、散歩には首輪とバイブを忘れないようにね」

兄の理不尽な命令に、妹は涙ながらに従わされる！

その彼女の身代わりになった少女もまた、卑劣な罠に！

全裸四つん這い・バイブ挿入散歩、兄妹相姦、ノーパンテニ

ス練習、処女膜喪失バイブオナニー。

総文字数 49671字（本文のみ）

兄にレイプされた智香は、その後も凌辱され続けていた。狂気が精神を支配する兄に少女は怯え、未熟な肢体を羞恥な責めに差し出していく。

そんな智香の姿に異変を感じたのは、彼女が所属するテニス部の主将である眞希だった。

真相を知った眞希は、智香を救おうと行動を開始する。

縦書き用と横書き用の2パターンを同梱いたしております。

尚、製品版には、既刊小説のお試し版も同梱済み。

（税抜 400円）

美少女奴隷 淫獄の世界2

実の兄に凌辱され、性奴隷として調教される少女！

その彼女に姉のように慕われる少女もまた、身代わりという罠に掛り性奴隷へ！

全裸露出後背位セックス、ノーブラ・ノーパン登校、ノーブラ・ノーパンテニス、秘処愛撫レズ、乳首綱引き、リモコンローター露出責め。

総文字数 50100字（本文のみ）

実の兄に凌辱され処女を奪われた智香は、その後も性奴隷として弄ばれ続けていた。

そんな智香の様子に疑問を感じた先輩の眞希もまた、その兄の言葉巧みな罠に掛り、自らの手で処女を奪う羽目になる。

（私が頑張って男を満足させないと、智香が苦しむことになる）

（わたしが辛いことでも我慢してお兄ちゃんとエッチしないと、お姉さまが……）

縦書き用と横書き用の2パターンを同梱いたしております。
尚、製品版には、既刊小説のお試し版も同梱済み。

(税抜き400円)

美少女奴隷 淫獄の世界3

神聖なテニスコートで凌辱の限りを受ける二人の美少女。眞希と智香。

愛するテニスのため辛い練習にも耐えてきた少女達が、卑劣な罠に嵌り性奴隷に身を落としていく。

ホームレス達による集団輪姦、全裸脱衣テニス、瘤縄渡り、浣腸、膣穴使用集団愛撫奉仕、テニスラケットスパンキング。

総文字数 55286字 (本文のみ)

「眞希と智香には、この縄にオマ○コを擦り付けたまま、部屋の中を歩いてもらうの。そうねえ、3往復ほどしてもらおうかしら」

眞希は目の前で揺れる荒縄を見つめた。

和樹と美嘉の手により、部屋の壁を橋渡しするように2本の毛羽立った縄が張られている。

そして、その縄にはテニスボールほどの大きさをした歪な結び目が、いくつも設けられているのだ……

縦書き用と横書き用の2パターンを同梱いたしております。
尚、製品版には、既刊小説のお試し版も同梱済み。

(税抜き400円)

女教師被虐の涙

生徒からも同僚教師から愛されていた美貌の女教師裕子は、父兄との些細な関係を疑問視され、山奥への分校へと配置転換させられる。

だが、その分校に居座る生徒と教師は、裕子を教師としてではなく、自分達の性処理奴隷にすることを企んでいたのだ！！

輪姦・性器洗淨・リモコンバイブ・秘部山芋責め・極太ディルド等々。

総文字数 50143字(本文のみ)

縦書き用と横書き用の2パターンを同梱いたしております。尚、製品版には、既刊小説全てのお試し版も同梱済み。

(税抜 400円)

女教師被虐の涙2

教師と生徒達に『性処理奴隷』として調教されている美貌の女教師裕子。そんな彼女の元を後輩教師である麻衣が訪ねてくる。

だが男達は、裕子に勝るとも劣らない麻衣の美貌に目を付ける。男達の牙が麻衣にも！

バイブ挿入四足歩行・時間無制限集団輪姦・レズ・秘部公開フェラチオ等々。

総文字数 52221字(本文のみ)

縦書き用と横書き用の2パターンを同梱いたしております。尚、製品版には、既刊小説のお試し版も同梱済み。

(税抜 400円)

女教師被虐の涙 3

姉妹を思わせる美人女教師が監禁され、性奴隷に調教される！

更には。彼女達を助け出そうとした孤高な美少女までもが、男達の餌食に！

ダブルディルド・オナニー、生実演性教育、浣腸フェラチオ、三角木馬等々。

女教師 被虐の涙シリーズ いよいよ完結！！

総文字数 55216字(本文のみ)

囚われの身のまま、『性処理奴隷』として調教される美貌の女教師裕子と麻衣。

連日の厳しく恥辱な責めにも屈しない彼女達に、男達の調教は激しさを増していく。

更には、手を差し伸べる美由紀までもが！

縦書き用と横書き用の2パターンを同梱いたしております。

尚、製品版には、既刊小説のお試し版も同梱済み。

(税抜 400円)

あなたのためなら私は……

夫が勤務中に倒れて病院に……一本の電話が、若き新妻の運命を変えた！

男に騙され連れて来られた館で、新妻は身体を弄ばれた揚句、性処理の道具になるよう脅される。

痴態を撮影され、夫の勤める会社まで人質にされた新妻に選択肢はなかった。

夫以外の男のペニスに犯される若葉。

監視カメラに撮影されながらの、夫との愛の営み。
露出過剰な衣装での、羞恥に満ちた散歩。
そして毎日のように金山の館に呼び出されての、セックス
という名の調教の数々。
同じ境遇の美少女アイドルを巻き込んでの女たちの饗宴は
続く。
縦書き用と横書き用の2パターンを同梱いたしております。
尚、製品版には、既刊小説のお試し版も同梱済み。
(税抜 300円)

あなたのためなら私は……第2部

若き新妻が穢されていく！
可憐なアイドルが凌辱される！
性奴隷として。性処理の道具として。
男に騙され連れて来られた館で、新妻は身体を弄ばれた揚
句、性処理の道具になるよう脅される。
痴態を撮影され、夫の勤める会社まで人質にされた新妻に
選択肢はなかった。
夫以外の男のペニスに犯される若葉。
監視カメラに撮影されながらの、夫との愛の営み。
露出過剰な衣装での、羞恥に満ちた散歩。
同じ境遇の美少女アイドルを巻き込んでの女たちの饗宴は
続く。
縦書き用と横書き用の2パターンを同梱いたしております。
尚、製品版には、既刊小説のお試し版も同梱済み。
(税抜 300円)

あなたのためなら私は……第3部

夫が勤務中に倒れて病院に……一本の電話が、若き新妻の運命を翻弄する！

連日連夜に渡る男達の過激な調教に、若葉の身体は傷付き、女としてのプライドまでもが引き裂かれていく。

だが、それでも彼女は挫けるわけにはいかなかった。

共に耐え忍ぶアイドル玲香のため。

そして、愛する夫のため。

あなたのためなら私は頑張れる。どんなに辛くて恥ずかしいことでも。

美貌の人妻と美少女アイドルが恥辱な行為に泣き叫ぶ。歓喜の涙を流す。

『あなたのためなら私は……』 シリーズ完結作品！

縦書き用と横書き用の2パターンを同梱いたしております。

尚、製品版には、既刊小説のお試し版も同梱済み。

(税抜 300円)

妹はオナペット 前篇

家族のキズナを守るため、少女はその清純な肢体を卑劣な兄に差し出す決意をする。

終わりのない恥辱。壊れそうな心。美少女を羞恥地獄へと落とす幕が開く。

既刊作品『禁忌……叶わぬ想い 前篇』に、新たに立ちキャラを中心とした挿絵を豊富に掲載。

一部ストーリーも編集し直しました。

家族思いの美少女智代が、表情豊かな挿絵として登場します。
清純な少女が卑劣な兄のオナペットに転落する過程を、絵と
小説の両面からお愉しみください。

本作品はPDFファイルで構成されています。

挿絵枚数 48カット（トップ絵を含む）

総ページ数 縦書き用 105枚

横書き用 95枚

総文字数 35570文字

縦書き用と横書き用の2パターンを同梱いたしております。

尚、製品版には、既刊小説のお試し版も同梱済み。

（税抜 500円）

妹はオナペット 後篇

卑劣な兄の策略にはまった少女は、オナペットになることを
宣言させられる。

翌日から始まる羞恥の満ちた調教の日々。

既刊作品『禁忌……叶わぬ想い 後篇』に、新たに立ちキャラ
を中心とした挿絵を豊富に掲載。

ストーリーも大幅編集し直しました。

家族思いの美少女が、表情豊かな挿絵として登場します。

清純な少女が卑劣な兄のオナペットに転落する過程を、絵と
小説の両面からお愉しみください。

本作品はPDFファイルで構成されています。

挿絵枚数 48カット（トップ絵を含む）

総ページ数 縦書き用 111枚

横書き用 103枚

本作品のみ文字数 41873文字

縦書き用と横書き用の2パターンを同梱いたしております。

尚、製品版には、既刊小説のお試し版も同梱済み。

(税抜 500円)

初恋の人は性処理ナース

アナタにお願いがあるの。ナースをひとりレイプして欲しいの。そうよ、徹底的に犯してちょうだい。彼女が鳴き叫ぶくらいにね。

その夜、僕は行動に移した。

まだあどけなさを残す看護婦さんを、力づくで犯していく。何度も調教して、僕専用の性処理ナースにしてみせる。

『今夜も来てくれたんだ。偉いね、性処理ナースさん』
本製品は、ADV形式のPC用ゲームになっております。
ストーリーは官能小説風。

男を知らない若いナースが卑劣な罠にはまり、調教の名の元に男に犯されていく。

尚、当製品をプレイされる前に、体験版をプレイし、動作確認をお願いします。

テキスト文字数 39000字

任意でのセーブ・ロード可

テキスト消去 背景表示可

音楽あり (MP3) を使用

(税抜 600円)

※お買い求めは、本作品購入サイト様でお願いします。

尚、作品詳細につきましては著者が運営しておりますサイト『恥辱なる小説』でもご覧になれます。

<http://chijoku.red/>